

S棟とともに歩んだ40年

一定年を迎えて



非常勤顧問（前看護部長） 大政 信子

私は、最初のS棟が新築された昭和49年4月に松山市民病院に就職し、勤続39年10ヵ月、この度平成26年1月に定年を迎えました。

同時に新S棟の1期工事が完成し、4月には旧S棟の解体が始まります。まさにこの40年間、S棟とともに歩んできました。

思い返してみますと、現在永頼会館が建っている所には昭和31年の市民病院発足当時の木造2階建ての古い建物が残っており、1階には総務課、用度課、経理課の事務局と事務長室、更衣室そして看護部長室の前身である総婦長室がありました。2階には院長室、医局、図書室などがあったと記憶しています。木造で古かったので歩くときガタガタ、ミシミシと

音がして夜は怖かったです。

現在のN棟ができる前は2階、3階、4階をB病棟と呼び、S棟ができた後、改装をして平成6年にN棟が建てられるまで使われました。今回の新S棟を建てる構想と同じように東半分を建て移転し、その後西半分をつくりN棟が完成しました。その間、病院は公休以外一日も休まなかったことに驚きました。

私が総婦長に就任したのは平成15年10月です。看護婦から看護師に法律が改正され、総婦長の名称を改め看護部長となりました。10年余り部長職をさせていただいた中で、看護部にとっての思い出は15年来の念願であったナースキャップ廃止とパンツルックのユニホーム採用です。感染対策や医療安全など

で色々な出来事があり、暗く淀んでいた気持ちをパッと明るく、気持ちを切り替えるきっかけを作れたように思います。

私自身は看護師不足に悩まされながらも、病院に定着してもらうにはどうすればよいかと日々考え、看護師の内面的な成長を促し、資質の向上を目指した教育を重視しました。道半ばで十分には到達できていませんが、そこは次期看護部長に託したいと思います。

3月に新S棟に移転し、4月からは電子カルテの稼働、SPDの本格稼働と次々と新しいことへの取り組みが待っています。団結力のある職員によって早く軌道に乗り、松山市民病院が地域に貢献し、皆様に支えられて、ますます発展していくことを祈念いたします。

訪問看護 始めました



訪問看護課 課長 長曾我部 時美

入院患者さんの平均年齢が高くなり、高齢者夫婦世帯や高齢者の独居が増加しています。通院中や退院後の不安を少しでも軽減し、患者さんやご家族が希望される住み慣れた地域や自宅で療養生活を送れるような支援ができればとの思いから、昨年10月に訪問看護課を立ち上げました。

地域連携室からの情報をもとに各病棟と早期に連携し、退院前から患者さんやご家族と面談を行います。そして情報収集をしながらご希望に添えるように、医療または介護での訪問看護について説明します。主治医からは病状説明を受け、介護の場合はケアマネージャーと退院前カンファレンスを持つなどしながら計画を立て、退院後に速やかに訪問が開始できるような体制にしています。

入院と違い、生活の場である自宅での看護は、その人の生活を理解することから始まります。バイタルや服薬のチェックはもちろん、話を聞くことで不安の軽減や疑問を解決し、無理なく続けられる生活指導をするなど多岐にわたり、きめ細やかな個性が求められます。病院の訪問看護という強みを活かし、医師との連携を密に図り、異常の早期発見や早期対応ができるように心がけています。

院内外の皆様の力を借りながら、患者さんやご家族にとって、より安心・安楽な在宅療養のための頼れる存在になることを目指していきたいと思います。



長曾我部 時美 高橋 愛

臨床心理士としての役割



臨床心理士 本宮 サト子

平成25年10月より小児科所属で勤務しています。心理検査やカウンセリング、チーム医療のメンバーとしての活動や、職員のメンタルヘルスを担当し、病院全体に関わっています。

病棟の相談は、医師、各専門スタッフ、病棟スタッフが、患者さんの不眠や気分の落ち込みに気づき、連絡をもらい対応しています。院内の連携で早期の対応が可能となるので、つながりの大切さを日々感じています。

今後は、集団療法の実施や各科の外来患者さんのご相談等でも役割を担いたいと考えています。また、臨床心理士の役割として、守秘義務を守りながら、患者さんの想いやニーズを各職・各部と共有し、患者さんに寄り添い、安心して医療を提供できるように努めていきたいと考えています。

主な
仕事内容

【外来】

小児科：発達検査・心理検査、発達相談やカウンセリング
内科：物忘れ外来

【入院】

病棟：患者さんやご家族を対象とした気分の落ち込みやお困り事の相談（必要に応じて心理検査を実施）

【チーム医療】

緩和ケアチーム：入院患者さんへの緩和ケア、患者さんやご家族の個別相談、医師・各専門スタッフ・病棟と連携・調整

心療内科チーム：患者さんやご家族との個別相談、カウンセリング

【職員】

仕事、家庭、自分自身についての相談、休職や復職の相談や調整